

2. 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の環境

源流部から^{しづかわ}渋川市に至る区間は、巨石の岩肌が連なる水上峡、^{すわ}諏訪峡に代表される風光明媚な景観を呈し、沿川には、ブナ、ミズナラ等の自然林、コナラ等の二次林やスギ、ヒノキ等の人工林が広がり、溪流にはイワナ・ヤマメ等の清流に生息する溪流魚が生息する。

扇状地が広がる渋川から^{くまがやし}熊谷市に至る区間は、蛇行河川が形成され、礫河床の瀬は群馬県内有数のアユ等の産卵・生息場となっているとともに、淵にはジュズカケハゼ等が生息し、中州等ではコアジサシ、イカルチドリ等の営巣が見られる。

熊谷市から取手市に至る区間では、広大な河川空間が形成され、水際に点在するオギ・ヨシ群落はオオヨシキリ・セッカ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息している。また、水域にはオイカワ、モツゴ、ニゴイ等の魚類が数多く見られる。

^{いんざいし}印西市から利根川河口堰に至る区間は、湛水域となっており、河口部のヨシ・カササゲ群落が広がる高水敷は、我が国有数のオオセッカの繁殖地となっている。また、河口堰下流の汽水域のヨシ原には重要種のヒヌマイトトンボ等が生息するとともに、干潟は、エドハゼ、ヤマトシジミ等の生息地となっている。

2.2 河川の自然環境

(1) 源流部から渋川市に至る区間

源流部から渋川市に至る区間は、ブナ・ミズナラ等の自然林、コナラ等の二次林、スギ・ヒノキ等の人工林が広がり、山間部を流れる溪流ではイワナ、ヤマメ、カジカ等の魚類やカジカガエル等の両生類が生息する。また、ダム湖周辺では、ヤマセミ、オシドリ、コガモ等の鳥類が見られる。



イワナ

【分 布】北海道と本州の各地。

【生息場所】日本産の淡水魚のなかでは最も標高の高いところに生息。夏季の水温が13～15℃を上限する河川の最上流域の淵を中心に生息。

【産卵時期】9～11月。

出典：川の生物図典



ヤマメ

【分 布】北海道と本州の各地、九州の一部。

【生息場所】川幅のある比較的開けた最上流から中流上部までの淵、落ち込み、岩陰の凹み、大きな石のまわりなどに生息。

【産卵時期】9～11月。

出典：川の生物図典

写真 2-1 源流部から渋川市に至る区間における主な確認種

(2) 渋川市から取手市に至る区間

渋川市から熊谷市に至る区間は、礫河原にカラヨモギ、カラニガナ等の植物が分布し、カラバタ等の昆虫類が生息する。礫河床の瀬にはアユ、ウグイ等が生息し、淵やワンドや溜まりにはギバチ、ジュズカケハゼ等の魚類が生息する。中州等にはコアジサシ、イカルチドリ、コチドリ等が見られ、水辺にはカモ類等が見られる。

熊谷市から取手市に至る区間は、河岸にヨシ・オギ群落、ヤナギ類が繁茂し、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息し、中州等にはコアジサシやチドリ類等の鳥類が営巣の場としている。水域にはオイカワ、モツゴ、ナマズ、ニゴイ等の魚類やモクズガニ等が生息している。



ジュズカケハゼ

【分 布】北海道、本州、九州の各地。

【生息場所】河川の中・下流域の流れのなかや湧水、湖沼や堀などにすむ。砂泥地を好みユスリカの幼虫などの小動物を食う。

【産卵時期】東日本での産卵期は3～5月

出典：日本の淡水魚



モクズガニ

【分 布】全国各地。

【生息場所】河川の上流域から河口域まで生息。

【産卵時期】産卵のために海に下る時期は9～10月。抱卵期は10月頃～6月頃。

出典：川の生物図典

写真 2-2 渋川市から取手市に至る区間における主な確認種

(3) 取手市から河口に至る区間

印西市付近から利根川河口堰に至る区間は、高水敷にヨシ・カサスゲ群落が広がり、オオセッカ等の鳥類が生息する。水辺では、カモ類、サギ類、カモメ類が多く見られる。

河口堰下流の汽水域のヨシ原や高水敷では、ヒヌマイトトンボ、キイロホソゴミムシなどの昆虫が生息する。また、水域ではマルタやウナギ等の回遊魚やスズキ、ボラ、シラウオ等が生息し、干潟にはエドハゼや水産資源となるヤマトシジミ等が生息する。



オオセッカ

【分 布】本州の一部。

【生息場所】ヒライ、アシなどの密生する湿原に棲息する。

【産卵時期】7～8月。

出典：日本の野鳥



キイロホソゴミムシ

【分 布】本州の一部。

【生息場所】泥質の河川の河口部の汽水域で、ヨシの群落が存在するところ。

出典：レッドデータブック
無脊椎動物編 1991年8月



エドハゼ

【分 布】宮城県以南の太平洋に面した地域。

【生息場所】生息地は限られており。自然環境が良好に保たれている河川の河口域や汽水湖。砂泥底を好む。

出典：日本の淡水魚



ヒヌマイトトンボ

【分 布】本州の一部。

【生息場所】太平洋岸の大河の河口部のところどころを生息地とする。汽水域でヨシ原の発達した河川の湿地に生息する。

出典：レッドデータブック

写真 2-3 取手市から河口に至る区間における主な確認種

(4) 渡良瀬川

支川渡良瀬川上流部は、瀬と淵が連続し、ヤマメ・ウグイ等が生息し、支川の合流する溜まりにはジュズカケハゼが生息する。礫河原の中州等はコアジサシ、コチドリ、イカルチドリ等の鳥類が営巣の場としている。近年は、高水敷にハリエンジュの繁茂が顕著に見られる。下流部は、ヨシ・オギ群落、ヤナギ類が繁茂し、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息する。

また、渡良瀬遊水地には、我が国最大規模のヨシ原が広がるとともに、トネハナヤスリ、ハナムグラ、タチスミレ等の湿性植物も見られる。鳥類では、チュウヒ等の猛禽類やオオヨシキリ、セッカが生息し、谷中湖等の水辺ではサギ類やカモ類が多く見られる。



ヨシ

【分 布】全国各地。

【生育場所】中・下流から河口域にかけての不安定帯の水際付近に生育し、水深 1m まで耐えることができる。

【花 期】8～10 月。

出典：川の生物図典



トネハナヤスリ

【分 布】本州の一部。

【生育場所】氾濫源に生育し、4～6 月くらいまで葉を出している小型のシダ。

出典：レッドデータブック
植物 I、2000 年



タチスミレ

【多 年 草】

【分 布】本州と九州の一部。

【生育場所】低湿地のヨシの間などに生える。

【花 期】5 月。

出典：レッドデータブック
植物 I、2000 年



チュウヒ

【分 布】北海道と本州の一部。

【生息場所】草地、アシ原、農耕地、牧草地などを生活圏とし、背丈の高い草やアシの中、時には林の中に身を隠して休息。

【産卵時期】4 月下旬～5 月。

出典：日本の野鳥

写真 2-4 渡良瀬川における主な確認種

(5) 鬼怒川

支川鬼怒川は、上流部は網状流路の礫河原には、カワラノギク・カワラニガナ等の礫河原固有の植物が自生し、カワラバッタ等の昆虫が生息する。瀬にはアユ等の魚類が生息し、ワンドや細流部にはジュズカケハゼ等が生息する。中州等にはコアジサシ、イカルチドリ等の鳥類の営巣が見られる。

下流部は、ヨシ・オギ群落・ヤナギ類が繁茂し、オオヨシキリ等の鳥類が生息している。



カワラノギク

【多年草】

【分布】本州の一部。

【生育場所】限られた河原の砂礫地に群生する。

【花期】10～11月。

出典：日本の野草



カワラバッタ

【分布】本州、四国、九州の各地。

【生息場所】河原のコブシ大の石ころが目立つところに生息する。環境の変化に弱く、中流域で大きな河原が残るような河川にしか見られなくなっている。

【産卵時期】8～10月。

出典：川の生物図典



アユ

【分布】北海道西部以南の日本各地。

【生息場所】中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着。

【産卵時期】彼岸頃～11月下旬。

出典：川の生物図典



コアジサシ

【分布】本州以南の各地。

【生息場所】夏鳥として渡来し、繁殖する。大きな川の中州や河岸、湖岸、海岸の砂礫地や埋立地に生息し、コロニーをつくる。

【産卵時期】4～7月。

出典：川の生物図典

写真 2-5 鬼怒川における主な確認種

(6) 小貝川

支川小貝川は、ヨシ・オギ群落が多く、水際にはハナムグラ、エキサイゼリ、タチスミレ等の湿性植物が見られる。クヌギ・エノキの雑木林ではオオムラサキが生息し、鳥類では、イカルチドリ等が見られ、水域では、オイカワ、ギバチ等の魚類が生息している。



ハナムグラ

【多年草】

【分布】本州と九州の一部。

【生育場所】河岸の湿った草地に生える。

【花期】5～7月。

出典：レッドデータブック

植物 I、2000 年



エノキ

【落葉樹】

【分布】本州、四国、九州の各地。

【生育場所】暖帯から温帯にかけての山地に生育

【花期】4～5月。

出典：川の生物図典



オオムラサキ

【分布】北海道西部以南の日本各地。

【生息場所】人家や耕作地に近い、エノキを含む雑木林。

【産卵】6～8月

出典：原色蝶類検索図鑑



イカルチドリ

【分布】本州、四国、九州の各地。

【生息場所】主に中流より上の河原に生息し、降雪地帯の上～中流域の河原にも留まり越冬する。海浜や干潟にはほとんど出ない。

【産卵時期】3～7月。 出典：川の生物図典

写真 2-6 小貝川における主な確認種

(7) 霞ヶ浦

我が国では琵琶湖に次ぐ広大な湖面積を有する霞ヶ浦は、ヨシ、マコモ等の抽水植物や浮葉植物、沈水植物からなる湖岸帯が広がっている。また、ヨシ群落にはオオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息し、水辺には、サギ類やコガモ、カイツブリ等が見られる。水域では、水産資源となるコイ、シラウオ、ワカサギ等の魚類が生息する。



マコモ

【多年草】

【分布】北海道、本州、九州の各地。

【生育場所】池沼や河川、水路などの浅水中に群生する。砂質より有機質の多い泥質を好む。

【花期】8～10月。

出典：川の生物図典



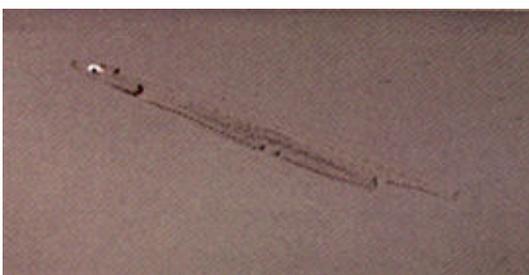
カイツブリ

【分布】全国各地。

【生息場所】湖沼や大小の池、ダム湖、ため池、河川の中・下流域、汽水域の潟湖などにすむ。ヨシの茂みの中や、水中に繁茂する水草の上に営巣する。

【産卵時期】2～10月。

出典：川の生物図典



シラウオ

【分布】北海道、本州、九州の各地。

【生息場所】河川の河口域と汽水湖に分布する。生活史の全てを汽水域で過ごす汽水魚である。霞ヶ浦でも繁殖する。主にプランクトン動物を食う。

【産卵時期】東日本では3～5月。

出典：日本の淡水魚



ワカサギ

【分布】北海道、本州の各地。

【生息場所】海の内湾、湖沼、人工湖と、これらに注ぐ川の下流域に生息。

【産卵時期】1～5月。

出典：日本の淡水魚

写真 2-7 霞ヶ浦における主な確認種

(8) 江戸川

派川江戸川は、河岸にはヨシ・オギ群落が見られ、オオヨシキリ、セッカ等が生息し、水際にクロベンケイガニ等のカニ類が生息する。水辺では、カモ・サギ類が見られ、魚類ではマルタやウナギ等の回遊魚やモツゴ、ナマズ、ニゴイ等が生息する。

また、河口部のヨシ原ではヒヌマイトトンボが確認され、干潟ではトビハゼ等の汽水生物が生息している。



セッカ

【分 布】本州以南。

【生息場所】草原性の鳥で、海岸や河岸の草生地、水田、麦畑、山地の草原等に生息する。

【産卵時期】5～8月。

出典：川の生物図典



クロベンケイガニ

【分 布】本州、四国、九州、沖縄諸島の各地。

【生息場所】アカテガニとほぼ同じで、水辺の陸上に穴を掘って生活。

【産卵時期】抱卵期は7～8月。

出典：川の生物図典



トビハゼ

【分 布】東京以西の太平洋岸各地、瀬戸内海沿岸、沖縄島以北の琉球列島。

【生息場所】泥質干潟の発達した河口付近の泥の中に、垂直な巣穴を掘って生息。

【産卵時期】3～8月。

出典：川の生物図典

写真 2-8 江戸川における主な確認種

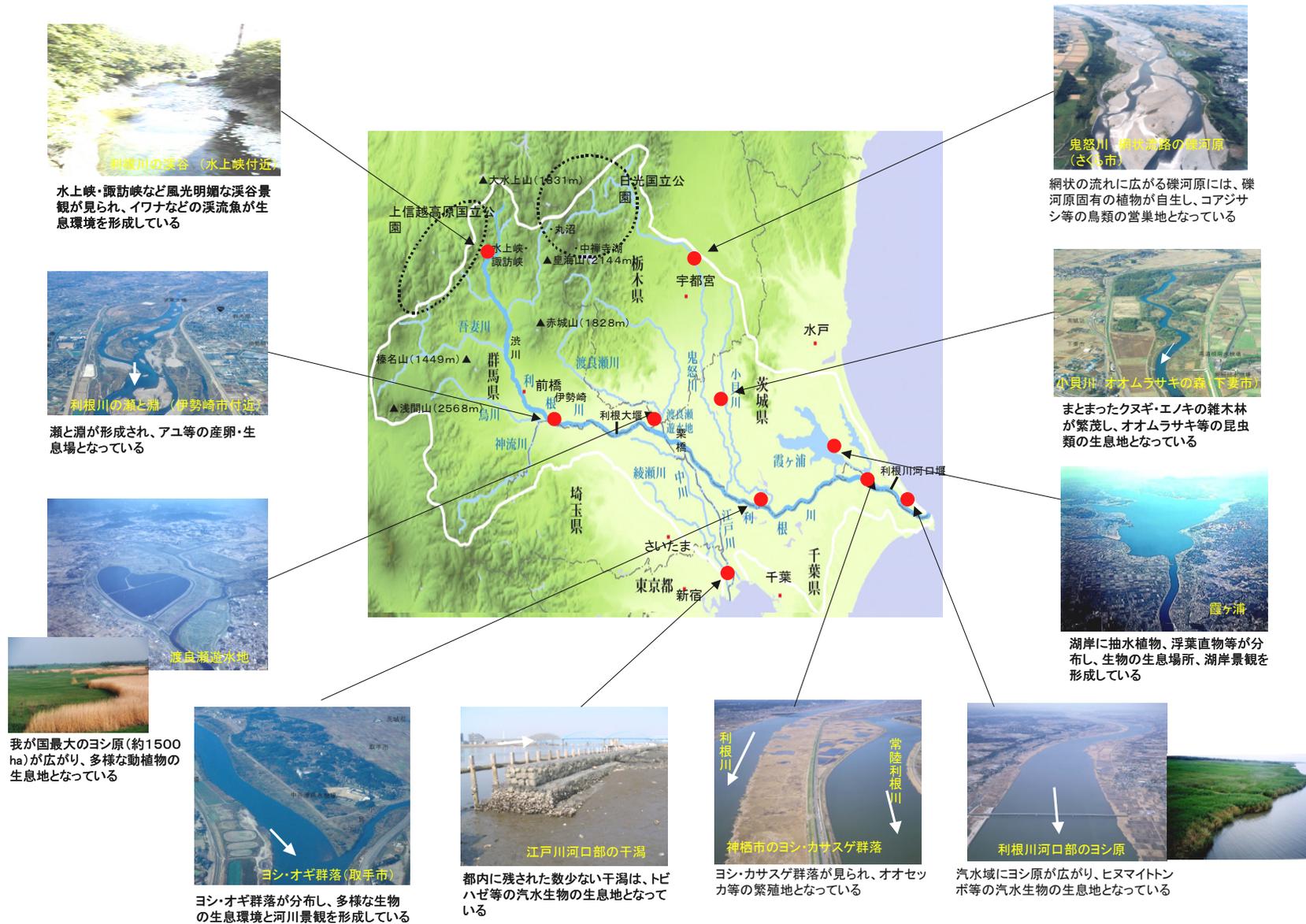


図 2-1 利根川水系の代表的な自然環境

2.3 特徴的な河川景観

(1) 特徴的な河川景観

利根川の景観は、水源となる2,000m級の山々、瀑布、清流、新緑や紅葉の美しい渓谷美等の自然景観や小説にも描かれた利根川の雄大な流れと田園風景、江戸時代の舟運の面影を残す渡船場や水郷地域等があげられる。また、渡良瀬遊水地、霞ヶ浦等の湖沼景観などの風景がある。

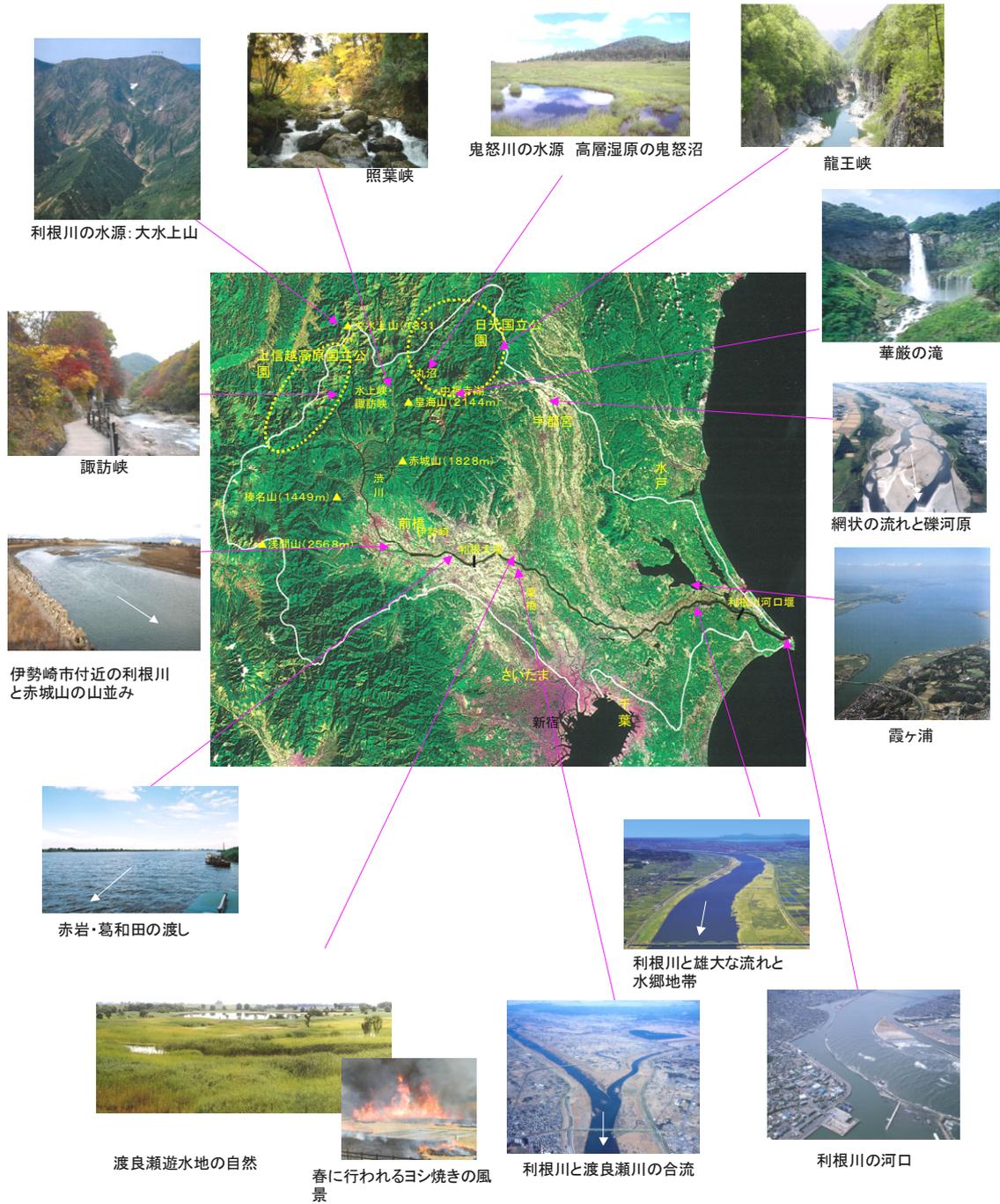


写真 2-9 利根川の特徴的な河川景観

(2) 流域の文化財及び遺跡等

利根川流域には、名勝・天然記念物・史跡が多数存在する。

日光杉並木街道（今市市・日光市）、吹割の滝、浅間山噴火による熔岩流中の樹幹跡である浅間山熔岩樹型（嬬恋村）、河床・河岸に巨石が横たわる三波石峡（神泉村）、自然の大洞窟を利用した10体の大谷磨崖仏（宇都宮市）、水郷地帯水路敷の十六島ホタルエビ発祥地（佐原市）、各地の神社の境内に残されている照葉樹の巨木、関所跡、城跡等地域の重要な景観を形成する文化財が残っている。



写真 2-10 日光杉並木街道



写真 2-11 吹割の滝



写真 2-12 横室の大カヤ



写真 2-13 栗橋関所址

表 2-1 利根川に関連した主な史跡・名勝・天然記念物等

名称	指定	所在地	
伊能忠敬旧宅	国 史跡	千葉県	佐原市
ミヤコタナゴ	国 天然記念物	千葉県	—
三波石峡	国 名勝	埼玉県	神泉村
御嶽の鏡岩	国 特別天然記念物	埼玉県	神川町
華厳滝及中禅寺湖湖畔	国 名勝	栃木県	日光市
三波川(サクラ)	国 名勝・天然記念物	群馬県	鬼石町
三波石峡	国 名勝・天然記念物	群馬県	鬼石町
吾妻峡	国 名勝	群馬県	吾妻町
川原湯岩脈	国 天然記念物	群馬県	長野原町
原町の大ケヤキ	国 天然記念物	群馬県	吾妻町
浅間山熔岩樹型	国 特別天然記念物	群馬県	嬬恋村
尾瀬	国 特別天然記念物	群馬県	片品村
吹割溪ならびに吹割瀑	国 名勝・天然記念物	群馬県	沼田市
横室の大カヤ	国 天然記念物	群馬県	富士見村
桜川のサクラ	国 天然記念物	茨城県	岩瀬町
片庭ヒメハルゼミ発生地	国 天然記念物	茨城県	笠間市
上座貝塚	県 史跡	千葉県	佐倉市
清戸の泉(附)版木	県 史跡	千葉県	白井市
伊奈氏屋敷跡	県 史跡	埼玉県	伊奈町
伊奈忠次墓	県 史跡	埼玉県	鴻巣市
小島庄右衛門墓	県 史跡	埼玉県	庄和町
栗橋関所	県 史跡	埼玉県	栗橋町
川俣締切跡	県 史跡	埼玉県	羽生市
川俣関所跡	県 史跡	埼玉県	羽生市
石田堤	県 史跡	埼玉県	行田市
忍城跡	県 史跡	埼玉県	行田市
寛保治水の碑(鷲宮神社)	県 史跡	埼玉県	鷲宮町
見沼通船堀遺構	県 史跡	埼玉県	さいたま市
田中正造邸宅	県 史跡	栃木県	佐野市
二宮尊徳の墓	県 史跡	栃木県	今市市
県庁堀 附 漕渠	県 史跡	栃木県	入舟町
榊原康政の墓、附同画像	県 史跡	群馬県	館林市
大谷休泊の墓	県 史跡	群馬県	館林市
茂林寺沼及び低地湿原	県 天然記念物	群馬県	館林市
天明三年浅間焼け遺跡	県 史跡	群馬県	嬬恋村
金島の浅間石	県 天然記念物	群馬県	渋川市
熊沢蕃山の墓	県 史跡	茨城県	総和町

出典：史跡名勝天然記念物指定目録、文化庁編集、各自治体HP

2.4 自然公園等の指定状況

利根川流域における主な自然公園等の指定状況は、表 2-2及び図 2-2に示す通りである。



図 2-2 自然公園等位置図

表 2-2 自然公園等一覧

	公園名	位置
国立公園	日光国立公園	群馬県・栃木県
	上信越高原国立公園	群馬県
国定公園	妙義荒船佐久高原国定公園	群馬県
	水郷筑波国定公園	茨城県・千葉県
都県立自然公園等	赤城公園	群馬県
	榛名公園	群馬県
	妙義公園	群馬県
	つつじが岡公園	群馬県
	笠間自然公園	茨城県
	吾国愛宕自然公園	茨城県
	前日光自然公園	栃木県
	足利自然公園	栃木県
	唐沢山自然公園	栃木県
	宇都宮自然公園	栃木県
	太平山自然公園	栃木県
	益子自然公園	栃木県
	九十九里自然公園	千葉県
	印旛手賀自然公園	千葉県
	大利根自然公園	千葉県
	長瀬玉淀自然公園	埼玉県
	上武自然公園	埼玉県
安行武南自然公園	埼玉県	
都立水元公園	東京都	